

学校統合を契機とした  
落ち着いた学校づくり

鏡野町立鏡野中学校

1 はじめに

本校は、平成28年度にそれまで町内にあった4中学校を、鏡野中学校1校に統合し、開校しました。生徒数や学習環境の異なる統合は、生徒指導面や学力面での不安の声が多く、課題も多くありました。そのため、統合2年前に統合準備委員会を立ち上げ、新しい学校づくりに取り組みました。現在、「日々新たに」の校訓のもと、日々伝統づくりに取り組んでいます。

の入室と授業準備の徹底を図り、チャイムとともに授業を開始しています。教員は、授業開始から5分間は全員で指導し、校内環境の整備にも全員で取り組んでいます。



開始5分間の全員指導

2 具体的な取組

(1) 魅力ある授業づくり

統合時の確認事項で、通常学級は30人以下の編制とし、岡山型学習指導のスタンダードに特別支援教育の視点を加え、鏡野中授業スタンダードを作成しました。併せて学習規律の徹底に取り組み、生徒には授業開始前

(2) 心に寄り添う生徒指導の  
充実

先を見通した上で、心で生徒を動かす指導を心掛け、厳しく、温かくかつ迅速で誠実な対応を

基本方針としています。また、共通理解と統一した指導のために早めの報告、連絡と相談にあたっていきます。

(3) 自主的・主体的な学校行事の展開

まだまだ伝統づくりの最中ですが、特に体育祭では、3年生を中心とした縦割り集団で学校行事の展開を図っています。また、生徒会執行部が専門委員会の発表の場を設け、ユニークな集会を開催しています。

(4) 豊かな人間性を育む道徳教育の推進

道徳授業充実拠点校事業の取組から、授業づくりを教科の枠を越えて取り組み、ローテーション授業の実践など「主体的で対話的で深い学び」を求めています。

(5) チーム鏡野の強化

一人で抱え込まず、風通しのよい集団であるよう、また、生徒は学びたい、教職員は勤めたいと感じる学校であるよう、教職員集団の団結はもとより、外部機関と綿密に連携し、組織として、学習や活動に取り組んでいます。

3 終わりに

毎年の実践が伝統となり、「新しい学校を皆でつくる」という考えを忘れず、開校3年目を終えます。特に何も取り組んだものはないように感じますが、生徒、教職員、地域、行政が同じ方向に進んでいることが本校の強みかもしれません。

「当たり前前」が当たり前前にできる」その意識を常に胸に秘め、進化を追求する学校となるよう「日々新たに」取り組んでいきたいと思えます。

(校長 三村公一)



ICT機器の活用